

# 知って当たり前

## 介護ガイド帳



上原喜光

介護をテーマにしたコラムを書いてみると、どうしても愚痴っぽくなったり、暗くなりすぎたり、書いていて楽しくないときもある。私も介護度4の97歳の老父と生活しているひとりだ。湿っぽいのは嫌である。

そこで、介護について「明るい未来」はないものかと考えてみた。まず、施設職員を含めた介護人不足。先日、公明党が「新・介護ビジョン」を発表した。今は野

党だからお手並み拝見というところだが、介護報酬アップや介護ボランティアにポイント進呈という案を出し、介護人不足を解消しようとしている。08年の時点で、全国に老人ホーム(有料ホームは除く)は、9299施設あり、定員は約58万5000人。しかし、職員不足などにより、約2割の部屋が空き室になったとされる。

## 介護の明るい未来もあった



は確実に減ってやってくれる。手芸なのだ。次に、介に入っている家族の下着を洗うかなどは厳密な規程を見てみよう。現役世の判断になっているよう代は意外とです。

知っている一方、介護保険で制限いだろうのがあるサーピスは、犬の散歩や洗車などが、サーピスの支援に限定されるか受付けられないか。昔は、軽い肩もみくらいは許されましたが、今は制限され、ちよピスもあつと残念です。

は、ドツと10万人以上の入所が可能になる。要すは、入浴、ゴミ出しぐらるにも結構だが、職員を増やせば入所待ちの老人